

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」高松伏石校		
○保護者評価実施期間	2025年10月24日 ～ 2025年12月21日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年10月24日 ～ 2025年12月21日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士や保育士など様々な専門的知見を持った支援員がおり、専門的支援を行っている。	内部研修や外部研修に積極的に参加をし、支援の質をあげている。他校舎にいる作業療法士に意見を求めることで、より専門的な支援を行えるようにしている。	校舎内外を含めて自己研鑽のための研修への参加。
2	支援プログラムの開発	机上課題だけではなく感覚統合がスムーズに進むよう、ビジョントレーニングやコグトレなどの内容を取り入れている。ソーシャルスキルトレーニングは、利用者の環境に合わせて内容を作成している。	利用者が興味をもって活動に参加できるよう、新しいプログラムを開発していく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	隣のブースの音が聞こえる。	防音対策はできていない。	パーティションを設置したり個室を活用している。 音に配慮が必要な利用者には静かに支援を行える時間を案内する。
2	校舎が狭い。	感覚統合などで運動する場面で校舎の狭さから活動範囲が限られてくる。	教室の広さを十分に生かせるよう、環境構成やプログラムの内容等を考慮して安心・安全に支援を行うように配慮する。
3	地域施設との連携。	相談支援事業所を通して情報を共有することができているが、直接的なかかわりを持っていない。	保護者との話から家庭や園の様子を聞き取っていき、必要に応じて直接関係機関と連携をとれるようにする。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」高松伏石校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数

14

回収数

14

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	5	0	0	もう少し広い空間だと良いです。	プログラムの内容によって適切な場所を考えて支援をさせていただいておりますが、事業所の大きさが限られているためその時間の活動内容やお子さまの特性で臨機応変に環境構成を考えさせていただいております。 教室の広さを十分に生かせるよう、環境構成やプログラムの内容等を考慮して安心・安全に支援を行うように配慮いたします。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12	1	0	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	0	0	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	3	0	0	臭いが気になります。 行く度に思います。	空き時間を活用したり、時間を決めて毎日掃除を行っています。すべての方に心地よい空間になるよう努力いたします。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	0	0	1	毎回子供に合った支援内容や、子供がやりたいと思う支援内容になっており、子供が意欲的に取り組んでいます。とても感謝しております。まだ先かもしれませんが、ひらがなに興味を持って欲しいなと思っておりまして、そこにフォーカスした内容もこれからぜひお願いしたいなと思っております。	個別支援計画に沿って支援プログラムを立てております。保護者様から十分に聞き取りをして、個別支援計画の見直し等、進めさせていただきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13	1	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	0	0	0	毎回違ったプログラムやおもちゃを用意してくださっていて、子どもの興味も広がりとてもありがたいです。	ありがとうございます。今後もお子様一人ひとりの様子をフィードバックを通して伺いながら、支援につなげていきたいと思っています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	1	6	3		「あそび博」等のイベントで今後も活動する機会を増やしていきたいと思っています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13	1	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	1	0	6		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	14	0	0	0	月に8～9日利用させていただいてます。 毎回支援後に先生の説明がありますが、半分に減らして少しでも支援で子供のお勉強や遊びを増やしてもらえたらいいなと思っています。	お子様一人ひとりの様子をフィードバックを通して様子やご希望を伺いながら、支援につなげていきたいと思っています。また、必要に応じて個別支援計画の見直し等、進めさせていただきます。

保 護 者 へ の 説 明 等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	0	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	2	1	6		「あそび博」等のイベントで今後も交流する機会を増やしていきたいと思います。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	0	0	2		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	12	1	0	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	0	0	1		
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	2	0	4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	2	0	6		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11	1	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10	1	0	3		
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	14	0	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	14	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	0	0	0		

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」高松伏石校		2026 年 2 月 14日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2	個室があることで音に敏感な子や、周りがにぎやかだと落ち着かない子の配慮を行うことができている。	パーティションなどでやりくりしているが、他児の気配や声が気になる子には対応が難しいと思うことがある。児発の子で運動をするスペースが狭い。また、同時に3人の児発が利用の際は、個別での支援が難しい時がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	3	職員間の連携を取り、利用者同士の安全面に配慮している。	支援そのものの数は足りていても、支援のつなぎ目で足りないときはある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	広い支援室と個室の支援室の間に玄関がある為、利用者が異動する際には、外へ飛び出さないか常に注意を向けている。	児発の支援で仕切りをすくなくし動きやすくする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	朝礼でどの利用者がどの場所を使うか話し合い、支援が始まる前には環境設定を行っている。	順番制で掃除を行っている。より丁寧な清掃を心がける。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	音が気になる子は離れている個室を活用し、広い支援室はパーティションで区切って視覚情報を減らし集中できるようにしている。	個室で活動する子が二人以上かぶる時は個室が一つしかない構造上無理がある。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	個別支援計画作成時等、指導員も一緒に話し合いに参加しモニタリングを行っている。	有効期限のチェックを確実に行う。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	定期的に保護者へ向けて評価表を配布してアンケートを依頼・回収している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	日常的に職員同士でやり取りを行い共通認識し、業務の役割分担を行っている。	香川3校舎間で情報交換しあえる体制を作る。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	実施なし。	実施なし。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	会社の研修が定期的に行われ、休みの職員に対して校舎内の掲示板上に議事録を貼り内容を共有している。	社内研修が多いが、内容について重複しているものもあるので、エリア内で精査している。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	利用者と保護者が今回の支援プログラムを見て内容が分かるように紙に支援内容とその活動にどんな狙いがあるのか記入している。	利用者の心身の状態によりプログラム通りに進まない時もあるが、違うやり方で個別支援計画に沿って支援を行うようにする。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3	2	正しい期間で個別支援支援計画を作成するために、支援の中で利用者の様子を見ながらアセスメントを行い、保護者の話を聞き、指導員同士の情報を共有している。	個別支援計画の作成が遅れている際には、上長の協力のもと作成をしている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	会議や書類、カルーン（グループウェア）上で情報を共有している。	支援を担当している指導員に話を聞きながら計画を作成しているが、話し合いの時間を合わせるのに苦労している。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	個別支援計画をもとにプログラムをくんでいる。会議や書類、カルーン（グループウェア）上で情報を共有している。支援前には必ず計画の確認を行い、計画に沿った支援を実施している。	最新の個別支援計画に付箋をつけることで、過去のものと間違わないようにする。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	年に1度保護者にアセスメントシートを記入してもらい最新の子ども様子を記入をしてもらっている。	発達検査についてエリア内で研修を行っているので受講する。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	ガイドラインにのっとり、それぞれの項目について利用者にとって適当な支援計画の内容を個別支援計画に記入している。	移行支援など、現在の環境下で行うには難しい利用者もいるため、関係機関との連携を深められるようにする。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	支援の内容で困った時は、他の指導員に相談しながらプログラムを作成したり、活用できる支援内容はみんなで共有している。	

児 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	固定していても意図やねらいを変えて多角度からアレンジするよう工夫している。 様々な指導員が支援に入ること、ねらいはずれないようにしながら指導員の専門性を生かした違った内容をおこなう。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3	2	同年代の利用者が同じ時間になった時は、その利用者が集団での活動の必要性の有無によって個別、集団活動を行っている。	小集団活動の支援プログラムについて取り組む。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	朝礼時に今日の支援の予定を確認し、部屋割りや混む時間帯のフィードバックの対応する人などを相談して決めている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	フィードバックの際に保護者から相談があったことなどは、大まかに職員間で共有したり、ガールン上で情報交換を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	2	支援記録や口頭でどんな内容をおこなったのか、どんな様子だったのか、今の利用者にはどんな支援が必要なのかを共有している。	支援記録がたまりがちになることもあるため、タイムパフォーマンスを意識する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	個別支援計画の作成に際しては、必ずモニタリングが実施されて、適切に見直しを行うことができています。	モニタリングが遅れている際には、上長の協力のもと作成をしている。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	児発管や施設管理者、主な支援担当者が参画している。 子どもの今の姿だけでなくこれから必要な力を考え、他事業所に提案している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	必要に応じて関係機関との連携を行うことができています。	地域の保健と連携を積極的に行う必要がある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	様々な事業所とつながって情報交換している 保護者の方から情報を聞いてもらったり、保育所、幼稚園等から希望があり、どんな支援を行っているか書面上での共有をおこなったりしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	4	現在のところ希望がないため、学校との間で情報共有は行っていない。	必要に応じて行っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	2	3	地域の基幹相談支援センターの研修などでスーパーバイズをいただく。	積極的に研修への参加をし、見識を深める。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	0	幼稚園の職員研修を行う。 また一般の方も参加してもらえるイベントを行う。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	フィードバックの際に最近の学校での様子や家庭での様子などの情報共有を行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	振り返りはペアレントトレーニングも意識して行っている	ベアトレなどの外部研修があり参加した。今後も機会があれば参加し、校舎内に掲示するなどして保護者の方も研修を知る機会を作っていきたい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時に説明を行っており、情報提供スペースで開示している。変更があった際には一人一人に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	フィードバックの際や、計画説明の際にご家族の話をしっかり聞いている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0	支援計画作成や更新時に同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	必要に応じて面談を行い、しっかり話を聞く機会を用意している。また、フィードバックの際に相談された場合は次の支援の際に返答できるよう職員間で情報共有を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3	保護者が所属している活動のチラシを掲示するなどしている。	イベントなどで、お母さん同士が繋がる機会やお父さんが交流できる機会を増やす。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	すぐに答えられない場合は、職員間で話し合い、次の支援の際に答えるようにしている。管理者が苦情の窓口になり、体制を整えている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	ブログやInstagramにて支援の情報などを発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	終業後には必ず書類保管ロッカーにカギをかけ、個人情報がかかれていた紙はシュレッダーをかけている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	声の大きさや職員の立ち位置を注意しながら関わるようにしている。保護者に必要な情報ができるように指導員も勉強をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0	地域イベント「あそび博」を地域の子育て広場と共催し、高松市教育委員会の後援のもと、市内全域の幼保こども園及び小学校の支援級に案内を行い実施する。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	マニュアル類は整備しており、書庫に格納するとともに、保護者が閲覧できるよう掲示している。目を離さないことを徹底し、「あるかもしれない」という意識を持って対応している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	マニュアル類は整備しており、書庫に格納するとともに、保護者が閲覧できるよう掲示している。災害時に備えて訓練を定期的に行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	アレルギーの有無や服薬などの情報はアセスメントシートの記入欄で把握したり、薬の内容が変わった時を口頭で聞いたときにはカルーン上で情報共有を行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	小麦粉ねんど等、アレルギー素材を使用する際にはアレルギーの有無の確認を行ってから活動に取り入れている。	イベントなどで食品を扱う際には、アレルギーの有無を確認したうえで開催する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	マニュアル類は整備しており、書庫に格納するとともに、保護者が閲覧できるよう掲示している。研修後、研修報告書を作成し、ファイルにファイリングして保管している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	安全確保計画を作成し、職員に周知徹底している。契約時に避難先など保護者に説明をしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	ヒヤリハットがあった際には書類に記入し、校舎内だけでなく匿名にしたうえで社内でも共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	3か月に1回以上、虐待防止のため会社内で研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0	重要事項説明書に記載しているとともに、個別支援計画にも記載し説明したうえでサインを頂いている。	